

SUMMER-CONCERT 1970



THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA

'70 8月20日(木) P.M. 7:00開演

東京文化会館大ホール

THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA SUMMER CONCERT

指揮 芥川也寸志
Conductor YASUSHI AKUTAGAWA

曲 目

- I 喜歌劇「軽騎兵」序曲 フランツ フォン ズッペ
Overture to "Leichte Kavallerie" Franz von Suppé
- II 喜歌劇「天国と地獄」序曲 ジャック オッフエンバッハ
Overture to "Orphée aux Enfers" Jacques Offenbach
- III 喜歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲 オットー カール エーレンフリード ニコライ
Overture to "Die lustigen Weiber von Windsor" Otto Carl Ehrenfried Nicolai
- IV ハンガリー狂詩曲 第2番 フランツ フォン リスト
Hungarian Rhapsody No. 2 Franz von Liszt
- V 組曲「水上の音楽」 ゲオルク フリードリッヒ ヘンデル
Suite from the "Water Music" George Friedrich Händel
- 1 アレグロ
Allegro
- 2 アリア
Air
- 3 ブール
Bourrée
- 4 ホーンパイプ
Hornpipe
- 5 アンダンテ
Andante
- 6 アレグロ デチーソ
Allegro deciso
- VI 組曲「大峡谷」 ファーディ グローフェ
Grand Canyon Suite Ferde Grofé
- 1 日の出
Sunrise
- 2 赤い砂漠
Painted Desert
- 3 山道を行く
On the Trail
- 4 日没
Sunset
- 5 豪雨
Cloudburst
-

1970年8月20(木)午後7時 東京文化会館大ホール

——音楽監督・常任指揮者——

芥川也寸志

Yasushi Akutagawa



アマチュア音楽の魅力とは、一口にいえば可能性の魅力といえましょう。アマチュアには無限の可能性が秘められている——音楽の実体に迫るための、感銘度の高い演奏が生まれるための、その条件と可能性は、アマチュアの前に無限に与えられている——と私は思っています。

また、アマチュアにはアマチュアらしい、プロには絶対にはない素晴らしさがなければならないと思っています。たとえどんな優秀なプロオーケストラの前に出ても、決して負けることのない輝くアマチュアリズムがなければなりません。

それは、道楽や自己満足におわらない、スポーツの世界にも通じる、鍛え抜かれた末に始めて手にすることのできる自信と誇りにうらづけられたものであります。

私たちはこの新響に与えられた可能性を少しでも多く引き出し、その道がけっして行きどまりではなく、音楽世界の中心に通じているということの証しをたてたい、それを演奏者全員がたしかに信じあえるステージを少しでもたくさんもちたい——そう考えております。

(音楽監督 芥川也寸志)

1925年 東京生れ

1949年 東京音楽学校研究科作曲部を卒業、作品は、〈交響三章〉〈交響管弦楽のための音楽〉〈弦楽のための三楽章〉〈交響曲第1番〉〈エローラ交響曲〉〈オペラ暗い鏡〉〈オスティナート・シンフォニコ〉〈チェロ協奏曲〉など多数。文豪龍之介の3男、45歳。

曲目解説

コンサートマスター

河野 土 洋

ボアエルデュー、ガブリエル・マリー、ハイケンス、パデレフスキー、ボルフフェラーリ、ケテルビー。

目方の軽い三文週間誌ではありませんが、娘がひとり、名をあげると、まずはその親がひきあいに出されるようです。そしてそのうち、兄弟姉妹までもが…。犯罪でこういう事になるのは、まっぴらですが、何か素晴らしいことなら悪い気持ちはしないでしょう。

それと関係あるかどうかわかりませんが、考えてみると、ただひとつの名曲を残して、この世を去った作曲家というのが、意外にたくさんいるもので、始めに書き並べたのが、そのひきあいに出された、生みの親たちなのです。「バクダットの太守」「金婚式」「セレナーデ」「メヌエット」「マドンナの宝石間奏曲」「ペルシアの市場にて」といえば、おわかりでしょう。そして、その名曲というのが、実にまた名曲で、とての親しみやすく、わかりやすく、楽しい音楽がいっぱいです。

「だからこそ、世に残っているのだ」などと言ってしまえば、それまでのことですが…。

ともあれ、そうした肩のこらない名曲の数々を、これまた、肩のこらない演奏で、存分に楽しんで載こうと、今宵のプログラムを組んでみました。

「軽騎兵」序曲

ズッペ

ちょっと有名で、あまり有名ではない作曲家の生れた年や場所は、参考書によって、ずいぶん違っていることがよくあります。そのたびに、どれを信用していいのかわからなくなります。この、フランツ・フォン・スッペ氏もその一例で、1820年イタリア生れというのがあれば、1819年ユーゴスラビア生れというものもあります。でもまあ、とにかくその頃、そのあたりで生れたらしいのです。

早くから、フルートを吹き、和声法というやっかいなやつをマスターし、やがて音楽の都ウィーンに出るに及んで、本格的に作曲を勉強しました。そして、アン・デア・ウィーン劇場の専属となって、作曲に、指揮にと活躍したのであります。

その頃のウィーンと言えば、今夜お聴き載く、「天国と地獄」を作った、オッフェンバッハや、ワルツ王、セ

ガレ・ヨハン・シュトラウスがいたのですから、ずいぶんとにぎやかだったことでしょう。

「詩人と農夫」、「スベードの女王」、「美しきガラテア」、「ウィーンの朝、昼、夜」など50曲にも及ぶオペレッタを作ったのですが、中で有名なものが、この「軽騎兵」です。

本文は、カール・コスタという、ウィーンの詩人が書いた台本によった喜劇ですが、その中に現われてくる、いくつかのメロディーを寄せ集めて、序曲にしてあります。

「軽騎兵」と言えばすぐさま口をついて出るほどおなじみの旋律で、中程に弦楽器が、ジブシーメロディーをセツなく歌う部分があって、存分に心に動かされる名曲であります。序曲の出だしの有名な進軍ラッパを、今夜は新響の誇る全管群（軍？）が高々と吹き鳴らします。それでは、はじまり、はじまり……。

「天国と地獄」序曲

オッフェンバッハ

ジャック・オッフェンバッハは、ドイツのケルンに生まれました。土地のユダヤ教会の合唱長をしていた父親はギターとバイオリン、それにフルートまでもよくする人でありました。その父親からバイオリンの手ほどきをうけたジャックは、やがてバリ音楽院でチェロと、作曲を学び、劇場オーケストラのチェロピキとして音楽生活を始めました。作曲の方は、はじめのうち小品を書いていたのですが、そのうち劇場を経営するようになり、100曲に及ぶオペレッタを書きました。

その中で、ホフマン物語と共によく知られているのが「地獄のオルフェ」こと「天国と地獄」であります。

40才の頃の作品で、ギリシアの楽人、オルフェを扱った喜劇で、序曲の方も、とても愉快にできていて、オペラ中の旋律をつづったものです。

序曲に続いて、バイオリンのソロが甘いホ長調のメロディーを奏でると、それをオーケストラが受けつぎ、一瞬、「ハッ」として、「サバーッ」として「オヤッ」と思っているうちに、例の調子のよい、フレンチカンカン……「カステラ一番、電話は二番…」が始まります。

「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲 ニコライ

歌手の父から、無理に音楽の訓練を強いられて、とうとう家出してしまった……などは、ベートーベンの少年時代と似た話ですが、その後、良い後援者に恵まれ、ローマにオルガニストとしての職を得て、イタリアオペラを研究することができました。しかしながら、特筆しなければならないことは、ウィーン劇場や宮廷の指揮者として活躍していた頃の1841年、今日のウィーンフィルを創立して、定期演奏を始めたことでありましょう。作曲家としてよりもむしろ、この功績が高く評価されているほどです。

これは、シェイクスピアの同名の劇によって書いた喜歌劇ですが、オペラとしてよりも、美しい旋律がひきかっています。

へ長調。アンダンティノ・モデラードで始まるチェロバスのユニゾンはやがてヴァイオリン、本管楽器に移されていき、やがて、アレグロ・ヴィヴァーチェのソナタ形式の主部に入ります。オーボエと、クラリネットによって、第一主題が奏でられると、ソロヴァイオリンと合奏がこれを受けつぎ、やがては、ヴァイオリンの奏でる美しい舞曲のような、第二主題へと誘われます。そして絢爛に、激しく、息つく間もなく、曲は前進していきます。

ハンガリア狂詩曲 第2番

リスト

1811年、ハンガリアに生れたフランツは、すぐれたピアニストであった父親から教えを受け、日本流に言えば、小学校へあがる年には、もうほとんどのピアノ曲をこなしていたといいます。10才からは、教則本でおなじみのチェルニーについて学びました。

ウィーンでの演奏会で、聴いていたベートーベンが感激のあまり、舞台へとび上り、リストを強く抱きしめたという話も有名です。それほどの天才ぶりを早くから発揮したリストは当時の偉大な芸術家とも交友を深くし、ヴィクトル・ユーゴ、ラマルティース、ジョルジュ・サンド、ショパンなどと親しかったといいます。

あのヴァイオリンの鬼才、ニコロ・パガニーニと双壁



地獄



天国と

をなしたピアノのリストがどれほどの名手であったかというのは、今日残されている数々のピアノのための曲に充分、伺い知ることができましょう。

45才頃からは、特に作曲に専念し、管弦楽曲にも、多くのすぐれた作品を残しています。

この一連のハンガリア狂詩曲は、ピアノ用とオーケストラ用とありますが、現在はオーケストラで聴く事の方が多いのではないかと思います。

オーケストラのこの第2番ハ短調は、ピアノは第12番嬰ハ短調に当たりますが、独特なハンガリア風の10の旋律が色どりを变えて次々に登場します。聴きながら主旋律をみつけ出して数えてみて下さい。初めは序奏で *Lento acapriccio*、次の2つは *Andante*、4つ目からあとは、全部 *Vivace* で速いのですが、親しみやすい2拍子の主題が7つ、時には遅く、時には速く、また時には大きく、時には小さくやくようにして激しく揺れ動きながら流れていきます。

「水上の音楽」

ヘンデル

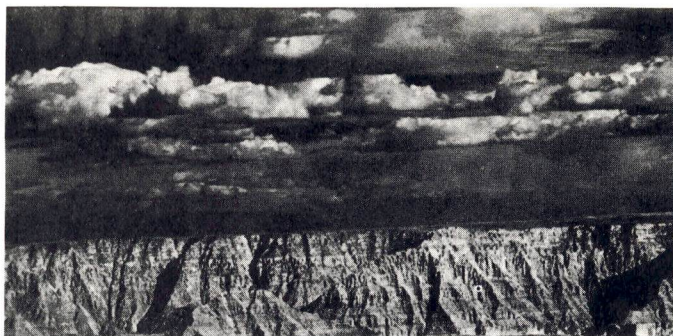
「1710年、イギリスに渡ったヘンデルは、当時、ハノーヴァー侯の家庭楽団の楽長をしていました。それで、一度は帰国したのですが、2年後再度ロンドンを訪れ、オペラなどを書いているうちに、イギリスのアン女王から賞金を受けたりして、すっかり、ここが居心地良くなってしまいました。ところが、アン女王がやがて逝去されると、その後に、なんと不義理をしていたハノーヴァー侯が王位についたではありませんか。困ったヘンデルは一策を案じて、王がテムズ河での船遊びを大変好きであることに目をつけて、河の上で演奏する音楽を書いたのです。王はすっかり喜んで、ヘンデルを許したのです。」という話は、有名ですが、河の上で演奏するため、管楽器をふんだんに使った、華やかな楽しい曲です。近年では、イギリスの指揮者、ハミルトンハーディーが、現代風にアレンジしたものがよく演奏されますが、今夜も、この版によるものです。

1. アレグロ、へ長調

ホルンと弦楽との、はずんだ対話に始まるこの曲は全曲版では第3曲にあたります。

2. アリア、へ長調

優雅に、穏やかに曲は流れます。



〈曲目解説〉

3. ブーレ

テンポのはやいフランス舞曲。弦と管が交わいで競演し、最後は仲よく合奏しておしまいです。

4. ホーンパイプ

3拍子の軽快な曲。

5. アンダンテ

オーボエのソロに始まる憂いをおびた旋律が、いろいろな楽器をさまよひ歩きながら最後に、次の曲への導入部となるようなコードが3つなります。

6. アレグロ・デチーソ

2分の3拍子。シンコペーションの第2番目の音にアクセントのついた特徴ある主題をホルンが勇ましく吹きならします。終わりを飾るにふさわしい勇壮な曲です。

組曲「大峡谷」

グローフェ

今度は、曲風が一転して、アメリカの現代作曲家、フーディ・グローフェの作曲した、管弦楽曲「大峡谷」です。

グローフェはニューヨークっ子。音楽一家に生れたのですが、音楽家になるのを反対され14才の時、家出してしまいました。自活の道を求めて、印刷工、トラックの運転手、劇場の売子、エレベーターボーイ、鉄くずひろい、ミルク配達とあらゆる仕事を点々としました。

一晚二ドルでピアノ弾きをして部屋代を稼いだりもしました。が、やがて家族も彼を理解するようになり、ヴァイオリンやピアノの勉強をすることができました。

1919年。有名なジャズマン、ホワイマンがバンドのピアニスト兼、アレンジャーとして彼を迎え入れました。ここで彼、グローフェは腕を発揮して、欠け替えないアレンジャーとして新風を送り込んだのでした。そして、若年ガースェインの「ラプソディ・イン・ブルー」をホワイマンのバンドにアレンジをして大成功をおさめました。

やがて、ホワイマンをはなれ、作曲家としての道に独立し、指導者として1937年カーネギーホールで、自作を演奏してデビューしました。そして、コンサート

に放送に、アメリカをくまなく描写した音楽をひっさげて、大活躍をしたのです。

この組曲は5つの曲から成っていて、グランドキャニオンの典型的な風光がみごとに描かれています。こういう描写音楽は、へたな解説を書くよりも、聴いて載いた方がよっぽどよくわかりますが、ひとこと、ふたこと書いておきます。

1. 日の出 SUNRISE

神秘的な夜明けの情景。穏やかな中に一種張り詰めた空気。やがて日の出。希望に満ちた一日の夜明けの音です。

2. 赤い砂漠

赤茶けた岩肌。長い年月を特語る積層の断崖。荒れ果てた砂漠が、そこにある。不気味な音が聞こえてくる。

3. 山道に行く ON THE TRAIL

いきなり大きなロバのいななき。つづいてソロヴァイオリンがカデンツ風に、ロバの表情をつたえと、やがてロバは、山道をトコトコと歩き出します。この組曲中、最も良く知られた曲で、ひずめの音に合わせて、ホルンが西部劇の歌をおおらかに奏でます。

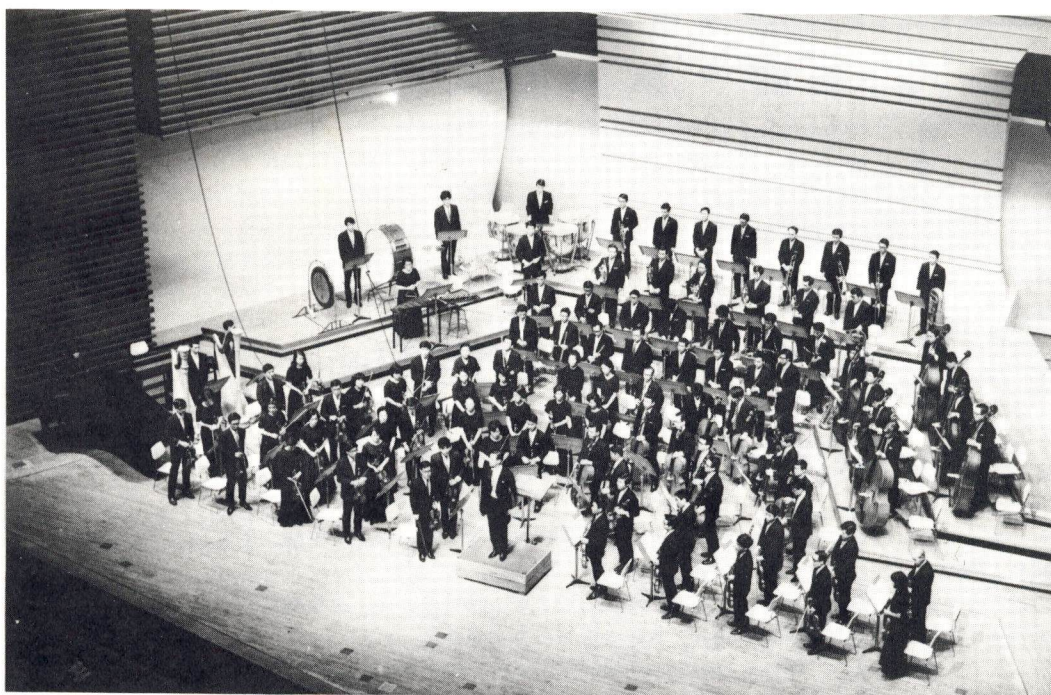
4. 日没 SUNSET

ホルンが何か意味有りげな信号を送るとそれが遠い山にこだまして、はね返ってきます。ヴァイオリンのハーモニックスが、夕陽の静かに落ちてゆく様子を美しく描き出します。海の夕暮れでもない、都会の夕暮れでもない、いかにも、山の夕暮れです。

5. 豪雨 CLOUD BURST

さきほどの西部劇の歌を、ヴァイオリンが、いかにも何か起こりそうな気配で奏でます。そうするうち次第に風が強くなり、雷がなって、とうとう大嵐となります。荒々しい自然の猛威が目あたりに再現されます。やがて嵐もおさまリ、再び美しい雄大な自然にもどります。終曲にふさわしく、大オーケストラがこの大峡谷の情景を回想しながら、華かに曲を閉じます。この曲の90小節より55小節にわたって

疑音が入りますが、この音を出すウィンドマシンは新響打楽器メンバーとその子分達による苦心の作です。そうあの脱穀機みたいなやつです。



新 交 響 楽 団

1955年1月、“労音アンサンブル”として出発し、その年の暮の、芥川氏との出会い、1957年11月、第一回定期演奏会の開催、第二オーケストラ、第三オーケストラ吹奏楽団の誕生、等を経て、1966年、団の運営方法をめぐって東京労音と対立し、芥川氏を擁する団員のほとんどの希望で、労音から独立、新たに新交響協会を設立、新交響楽団、新日本交響楽団、新交響吹奏楽団、の三つの団体による新交響楽協会は独自のユニークな活動を進めて来ました。そして本年5月、日頃私共の考えている理念をさらに、おしすすめるために、この協会組織を発展的に開散することになり、新交響楽団は今までの三団体だけでなく、もっと幅広く、同じような目的を持った団体と手を結び、アマチュアオーケストラに与えられた可能性を開拓していこう、ということになりました。

このような運営上の転期を迎える度に私共はその活動に対し反省と新しい信念を確認しつつ進んでまいりました。

日常の生活の中から音楽そのものの核心に通じるものを表現できるオーケストラとして、その未知の可能性を自分達で求め、真のアマチュアリズムを誇り得る演奏をしたいと思います。演奏会に来て下さったお客様と一緒に、このステージで、音楽の核心に通じる感動を味わうことができれば、これに勝る喜びはありません。

最近の主な活動

1969年

4月1日 第18回定期演奏会 東京文化会館
ピアノ協奏曲第1番＝ペートーベン、交響曲第5番
＝ショスタコービッチ他、ピアノ独奏＝岡村梨影

8月4日 サマーコンサート 東京文化会館
交響組曲「ミシシッピー」＝グローフェ他

10月26日→11月4日 九州沖縄演奏旅行
那覇、熊本、佐賀、長崎、大分、小倉、福岡、都城、
鹿児島 喜歌劇「こうもり」序曲＝J. シュトラウス
交響曲第8番「未完成」＝シューベルト、バイオリン
協奏曲＝チャイコフスキー、交響曲第9番「新世界より」
＝ドボルジャック、バイオリン独奏＝久保陽子

12月21日 特別演奏会 厚生年金会館
合唱団鯨と共演、オラトリオ「救世主」＝ヘンデル

1970年

4月13日 第19回定期演奏会 日比谷公会堂
交響詩「前奏曲」＝リスト、交響曲第101番「時計」
＝ハイドン、組曲「展覧会の絵」＝ムソルグスキー
＝ラベル編曲

7月1日 合唱団鯨演奏会に出演 渋谷公会堂
オラトリオ「天地創造」＝ハイドン

—新響・次回演奏会予告—

新響・第20回定期演奏会

日	時	1970年11月4日(水)、午後7時開演
会	場	神田、共立講堂
曲	目	「後宮よりの逃亡」……………モーツアルト 交響曲第5番変ロ長調……………シューベルト 交響曲第4番ヘ短調……………チャイコフスキー
演	奏	新交響楽団
指	揮	外山雄三(客演)

—新響の団員を募集しています—

メンバー表を見てもわかるとおり、新響団員は、サラリーマン、主婦、学生などで構成され、音楽を職業としている者はおりません。

どなたでも、簡単なテストを受けて団員になることができます。お気軽に下記へ電話下さい。

定期練習 毎週木曜日、文化会館リハーサル室

問合せ先 〒160 新宿区須賀町14大湊ビル4F

新交響楽団

TEL. (357) 5255
——但し、平日午後のみ——

新響・登録会員募集中

<新響の演奏を聴いてください>登録会員募集

◇新響の演奏会の御案内を毎回お送りします。

◇入場券は一割引きさせて頂きます。

◇会員証を提示して頂ければプログラムは無料でさしあげます。

申込みは、〒160 新宿区須賀町14 大湊ビル 新交響楽団宛 ハガキにて 郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、生年月日、ご職業、もしありましたらご所属の音楽団体、楽器をやられる方は楽器名を付記してください。

新響のマークを募集中!!

新交響楽団は現在、団員バッジ、プログラム等に使用するマークの図案を募集中です。

□応募方法 A4版トレース用紙に黒インクで、作図方法、簡単な図案の意味及び、住所、郵便番号、氏名(フリガナ)、年齢、性別、職業を書き添える。

宛先 〒160 東京都新宿区須賀町14 大湊ビル 新交響楽団 TEL (357) 5255

□締切 8月31日(当日消印有効)

□謝礼 当選者1名には新響の演奏会の終身招待状を。

規定にあった応募者全員に11月4日第20回定期演奏会の招待状を。

□参考 正式名称……新交響楽団、英語名……THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA

皆さんのほとんどの方が小学校で木琴やタンバリンをたたいたり、プラスバンドのマーチに流れる小太鼓に合せて行進したり、或いはジャズバンドのドラムビートによってダンスを楽しんだ経験があると思います。この様に大変身近に思われる打楽器ですが、こと“オーケストラ打楽器”と聞くと何か奇異に感じられる向があるのではないかと思います。しかし、オケ用打楽器自体は軍楽隊や軽音楽で使用される打楽器と特別違ったものではありません。むしろ軍楽隊用、舞踊伴奏用の打楽器があとからオーケストラのパートに編入されたのです。

例えばティンパニー（音程可変釜型太鼓）ですが、これは中央アジアの遊牧民族が戦いに出陣する際、ラクダの背の両側に一枚皮の太鼓をつけ“ティンパン、ティンパン”と打ち鳴らしたのが始まりですし、シンバルにしても古代エジプトで戦場に向う兵士の士気を鼓舞する為に“ジャン、ジャン”と鳴らしたものです。小太鼓はナポレオンのロシア進撃の際、ラッパと共に作戦展開の伝令役として活躍しました。もちろん鈴とかタンバリン、カスタンネット等の小物打楽器は舞踊伴奏の民族楽器として使われていたのですが、大きな音を出す打楽器類はその強烈で闘争本能を刺激する音色のために元来は軍楽隊用の楽器として使われていました。ですからオーケストラに楽器として登場する様になったのはかなり後の時代からです。本格的にはベルリオーズ以後の作品に様々な打楽器が出演しだしたのです。

ところで今日のオーケストラで使用されている打楽器の代表的種類は、①太鼓類——ティンパニー、大・中・小太鼓（タンバリン）②金属打楽器類——シンバル、トライアングル、鈴、ドラ、鐘③木製打楽器類——ウッドブロック、カスタンネット、木魚、ガラガラ④有鍵打楽器類——木琴、鉄琴、マリンバ、チャイム、ピブラホーンなどに分かれます。この中でまずティンパニーがハイドン、モーツァルト時代にオケ用打楽器として登場し、ベートーヴェンからはパートとして確立したのです。しかし他のものはモーツァルトの“ドイツ舞曲”での鈴やトライアングル、ベートーヴェンの“ウェリントンの勝利”での小太鼓・大太鼓による英仏両軍、砲声の描写等のように当初は舞曲や戦争描写用に使われる程度だったのです。やがてオーケストラが二管、そして三管編成へと管弦楽曲が壮大で多彩なものになるにつれ各種の打楽器が使われだし今日のような打楽器陣が生み出されました。その最初のものはベルリオーズの作品です。ことに“幻想交響曲”では第5楽章の鐘をはじめとして6人の奏者による打楽器群を随所に活躍させていますがここでは作曲家によって音質や奏法が細く指定され打楽

器がオーケストラ楽器として見事に生かされています。ベルリオーズ以後はラヴェルやストラビンスキー、コープランド等によって数多くの打楽器が使われるようになり、最近ではジャズドラムセットや民族打楽器を必要とする作品もあります。

ところで、打楽器は同種の楽器であってもサイズ、スタイリング、材質、使用する撥の質量等の差違によって様々な音質と響きを出すことができます。

なかでもオケ用打楽器の主役であるティンパニーは釜の大小や深浅によって一般向、古典向、室内楽向等に大別され、さらに打面が牛皮か、プラスチックか、撥が木製か、竹製か、アルミ製か、撥の頭の中心がコルクか、フェルトか、ゴムか、頭を包んでいるフェルトは固いか柔らかいか等々の条件の組合せによって多種多様な音色を生み分けることが出来るのです。このため奏者は演奏会のプログラムに応じた楽器を選択し、曲目別、或いは一曲の中でも何種類かの撥を使い分け演奏します。こうした楽器の撰別や撥の使用については他の打楽器も同様に取扱います。このため奏者は何種類もの撥を作らねばなりませんし、場合によっては市販の打楽器本体を改造したり、打楽器を製作したりすることさえあるのです。これこそ“タタキ大工の本領発揮”というところですがオーケストラ打楽器奏者の最も苦勞することは、重い楽器を運ぶことでなく、長い休みの小節をジッと待つことでもなく、実はこうした“音質の追求”といったところにあるのです。

実際、私たち奏者が最高のよろこびを感じるのは、たとえ目立たないフレーズであっても打楽器が各々チームワーク良くびったり合った音を演奏した時です。この瞬間は思わず嬉しくなるのですが、これが逆に不揃いの音や“ドカン”と一発、一人で飛び出した時などは動きが目立つパートだけに“駄楽器奏者”として穴にでも入りたような惨めな気持ちになってしまいます。オーケストラの土台として、また“第2の指揮者”としての打楽器奏者に課せられた当然の務めは“リズムの創造”ではありますが、なにしろ相手はほとんどが音程のない楽器ばかりですのでたいてい簡単に鳴る原色音一つで異質な音楽や微妙な曲想を表現することは不可能であります。ですからリズムだけではなく音質も考えた上での演奏こそオーケストラ打楽器奏者に課せられた務めといえましょう。

最後になりましたが、現代オーケストラ打楽器奏法は伝統的な荘重さを誇るドイツタイプと完璧なテクニックや取代的解釈を主張するアメリカタイプの二派に大別されます。両派の良悪については各々に一長一短があるため我国のオーケストラでは曲目に応じて楽器、奏法、奏者の組合せを行なうのが慣例となっています。なお我国の演奏技術水準は弦楽器と同様、世界的にかなり高いレベルに達しています。どうぞご安心下さい。

安 田 央

海外旅行は信用とサービスの



西武トラベル(株)

○海外演奏旅行

○国際会議出席

○留学

○視察、観光旅行

海外旅行のお問合せは下記へ

新橋営業所 (436) 4911～4

港区西新橋 2-16-1 全国たばこセンター

○池袋(営)西武百貨店 1 F
981-0111

○渋谷(営)西武百貨店 1 F
462-0111